

平成 28年 3月 30日

公益財団法人広島市文化財団理事長 様
 (東区民文化センター) 様

住 所 〒733-0011
 広島市西区横川町2丁目3-1 川崎ビル2F
 団体名 舞台芸術制作室 無色透明
 代表者職・氏名 代表 岩崎 きえ
 (担当者) 同上
 (住 所) 〒 同上
 (TEL) 090-7892-8925 (FAX)
 E-mail a.p.musyokutoumei@gmail.com

事業の終了について

下記のとおり、事業が終了したので報告します。

記

事業名	東区民文化センター舞台芸術促進事業 アートリップル事業 vol.5 『再演』からうまれる可能性
日 時	2015年9月12日(土) 19:00、13日(日) 14:00 スタジオ2 2015年10月31日(土) 13:00 ギャラリー 2015年12月15日(火) 19:30、16日(水) 19:30 ホール
会 場	スタジオ2、ギャラリー、ホール
入場者・参加者	坂口修一 一人芝居／【傘がない】 動員数 100名 第七劇場ワークショップ 参加者 述べ人数 29名 第七劇場／新作国内ツアー2015 【Alice in Wonderland】 動員数 147名

実施内容	<p>■2015年9月12日(土)、13日(日) 坂口修一 一人芝居／【傘がない】広島公演 過年、岡山のC.T.T.で観たことのある作品で、非常に魅力的であり、関西、東海地域で評価の高い俳優である坂口修一氏と、劇作家協会新人戯曲賞を受賞された角ひろみ氏がタッグを組んだ作品。 シンプルな舞台装置であるにも関わらず、観客を引き込む密度の高い脚本と卓越した演技力で、好評可を得た。 続編である「手がない」という作品の広島公演を求めるお客様からのアンケートが非常に多く、「観客の声から」次年度への企画へつながるとい、制作的に喜ばしい業績となった。</p> <p>■2015年10月31日(土) 第七劇場ワークショップ 「カラダをキレイにワークショップ」 『演出』の解体新書 第七劇場の広島公演がレギュラー化してきたときから、その高い身体を生かしたワークショップを試みている。 「演劇」というくりに縛られず、広く多くの方にご参加いただける内容で第1部を構成した。例年、「またやって欲しい」という声を頂戴しており、今年度のワークショップでも「このワークショップで初めて東区民文化センターに来た」という方に多数ご参加いただくことができた。 第2部は、自身の劇団で「演出のみ」を行う鳴海康平氏による、「演出とは」という題材に特化した内容とした。 演劇のみならず、ダンスのジャンルからも参加者があり、「桃太郎」を題材に演出でオリジナル作品にするにはどうしたらいいかを、グループディスカッションで行い、発表した。 ただ2時間という時間では、演出法のディスカッションまでは至ることができず、もうすこし時間を長く行って欲しいという声もあった。 次回への参考にしたいと思う。</p> <p>■2015年12月15日(火)、16日(水) 第七劇場／新作国内ツアー2015 【Alice in Wonderland】広島公演 2010年度から行っている第七劇場の「雨月物語」「かもめ」「班女・邯鄲」に続く、広島公演の4作品目となる。 どの作品も、さまざまな形、趣向で昔から国内で数多く上演されている作品であるが、第七劇場の特徴、俳優の力などが生きた作品となった。 また、特筆すべきは、この事業の一つの目標でもある若年層の観客へのアプローチが成功したことであった。25歳以下が28名、高校生以下が26名、合計54名と、アトリップル事業最高の数であった。これには、鳴海氏による事業理念へのご協力の点が大きい。 もう一点、鳴海氏からの要望で未就学児の入場を可とした演劇公演でもある。「静かに観なくてもだいじょうぶ」「親子で演劇を愉しんでもらいたい」という鳴海氏からの提案であった。 多少の不安はあったが、子ども連れで来てくださるお客様も多く、無色透明としても新たな試みとなった。 子どもには子ども向けのというジャンルわけにとられない、子どもも大人も楽しめる質の演劇と言うものが、もっと広島に増えてほしいと、改めて感じた。 また、第七劇場にとっても「広島」という地が、ツアー公演地として有益な場になりつつあることへの関係性の発展は、継続していることのひとつの大きな結果であると考えている。</p>
その他	

*事業報告書を別途作成している場合は、添付してください。